

2025年度（令和7年度）  
滋賀県中小企業団体中央会×龍谷大学  
「滋賀のものづくり企業×龍谷大学先端理工学部 2025連携交流事業 in 龍谷祭」  
開催要項

1. 事業名

『滋賀のものづくり企業×龍谷大学先端理工学部 2025連携交流事業 in 龍谷祭』  
～先端理工学部3年生が取り組む『R-Gap プロジェクトリサーチ』を通じた交流～

2. 事業目的、概要

滋賀県中小企業団体中央会では、滋賀県内の中小企業における技術力や経営力の向上、人材育成の分野での連携を図ることを目的に、龍谷大学と「産学地域連携基本協定」を締結しています。この協定締結による連携事業の一環として、先端理工学部3年生が取り組む『R-Gap プロジェクトリサーチ』を通じた県下ものづくり中小企業と龍谷大学生との交流事業を開催いたします。

※『R-Gap プロジェクトリサーチ』とは

主体性や課題解決能力を養うことを目的に、学生の自発的な発想で調査・研究活動を行う実験・実習科目です。個人もしくは少人数のグループで、指導教員と相談しながら自主的・主体的に課題の設定から、調査・研究手法の検討と実施、結果の分析を行い、そのうえで成果を発表。これらのプロセスを通して、自主的に学ぶ姿勢を身につけるとともに、自分の考えを明確化し、意見表明するスキルの向上を目指すものです。

学生の取り組み内容の事前提供と当日の学生によるポスターセッションを通じて、今後就活を控えた3年生の学びや柔軟な発想・関心事に触れていただき、それらが実社会の経済活動にどうつながるのか、ものづくり中小企業としての目線でご評価いただきます。

さらに、各審査企業様からのご評価に基づき、12月に開催予定の「評価報告会・授賞式」にて、『審査企業名を冠した賞』を学生に対して授与いただきます。

ご参加の審査企業様におきましては、就活を控えている学生（3年生）や関わる学部教員との交流を通じて、ものづくり中小企業を取り巻く環境や将来性、業界や自社の取り組みなどPRや認知度向上につながることで、またCSR活動の一環としてイメージアップに寄与することを期待しております。

3. 開催日時および場所

令和7年10月25日（土）龍谷大学瀬田キャンパス

◆プロジェクトリサーチ・ポスターセッション 13時～（予定） 1号館1階

上記詳細については、10月中旬のプロジェクトリサーチ概要書の提供とともにご案内いたします。

4. 案内対象者および参加定員

ものづくり補助金活用企業

・『R-Gap プロジェクトリサーチ』審査企業 5社程度（先着順）

## 5. 案内から開催までのスケジュール

※『R-Gap プロジェクトリサーチ』審査企業向け※

8月中旬：ものづくり補助金活用企業様へのご案内

9月26日：応募期限締め切り

10月初旬：学生によるプロジェクトリサーチ 完成

10月中旬：審査企業への審査項目およびプロジェクトリサーチ概要書の提供  
書面にて事前確認・事前評価

10月25日：R-Gap プロジェクトリサーチ報告会（ポスターセッション）開催

・審査企業の自社紹介（企業 PR）

・ポスターセッション会場にて、学生からの各プロジェクトの報告

・ポスターセッションを通じて、学生との意見交換・交流

・学生からのプレゼンを聴取し、審査項目をもとに、評価を実施

11月中旬：プロジェクトリサーチ企業評価取りまとめ

11月中旬以降：プロジェクトリサーチ評価報告会・授賞式の開催

・学生のプロジェクトに対して、各審査企業名を冠した賞を授与

・審査企業からの評価コメント発表

・指導教員および学生との意見交換・交流

## 6. 申込方法（期限：令和7年9月26日（金）まで）

別紙案内チラシをご確認いただき、案内チラシ裏面用紙を記入の上、下記 E-mail・FAX にて提出（E-mail：mochizuki@chuokai-shiga.or.jp FAX：077-502-0111）

もしくは、参加申込 Web フォームにて入力（<https://x.gd/B0xfe>）



## 7. お問い合わせ先

参加申込 Web フォーム

滋賀県中小企業団体中央会 指導課 担当 望月

Tel 077-511-1430 E-mail mochizuki@chuokai-shiga.or.jp

龍谷大学 龍谷エクステンションセンター（REC） 担当 河角

Tel 077-543-7805 E-mail rec@ad.ryukoku.ac.jp

## ▼審査内容について（現案）

下記、審査ポイントをもとに、全プロジェクトの中から、各審査企業3テーマまで選出いただきます。

- ・テーマ：独創性や新規性があり、興味が引かれるか。
- ・ポスター：ポスターの構成、表現等はわかりやすくする工夫がなされているか。
- ・発表態度：内容をしっかりと理解し、聴衆の反応を確認しながら丁寧に説明していたか。
- ・内容（手法）：実験や調査方法が目的に沿ったものであり、十分な量のデータが得られおり、適切に分析されているか？
- ・内容（考察、結論）：結果に基づいた考察および目的に沿った考察がされており、結論が適切に導かれているか？
- ・審査企業の目線：自社の業界や業種を鑑み、独自の目線で、プロジェクトのテーマや内容、結果が実社会の経済活動にどうつながるか？